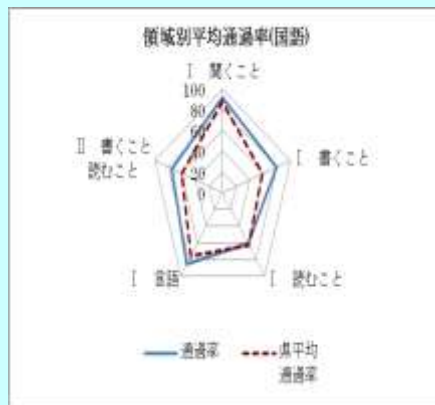


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 79.6%, 県 69.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- タイプⅠ全体の通過率は80.8%で、通過率50%を下回っている設問は1問、通過率80%を上回っている設問は10問である。(17問中) タイプⅡ全体の通過率は74.4%で、通過率50%を下回っている設問はなく、通過率80%上回っている設問は2問である。(4問中) このことから、基礎的基本的な内容、活用する力ともに定着は図られつつあると言える。しかし、文章の展開を確かめながら、文章全体の要旨を捉える力に課題があることがわかる。
- ここ3年間の課題であった、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができる力を問う設問については、昨年度の49.3%から、今年度58.8%と横ばいで特に課題が大きく残る。関連資料の活用など授業改善が必要である。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

◎ 文章の展開を確かめながら、文章全体の要旨をとらえる力が定着していない。筆者が説明しようとする内容を、具体例や補足の部分、言い換えている部分などを読み分け、キーワードを参考にしてまとめる力に課題がある。
(三の5 通過率42.2%)

【課題2】

◇ 内容を理解した上で、新たな課題を見つける力、学校図書館等の施設の利用とそれらを活用する力が定着していない。図書館の利用や教科の図書館利用なども少なく、実体験が不足している。また、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える力にも課題があると考えられる。(2の三 正答率45.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ◎ 文章全体の内容を読み取るためには、書かれていることから枝葉を切り落とし、その文章の根幹を把握しなければならない。この根幹と枝葉を区別する力を付け、内容把握ができるようにするために以下のことを指導していくこととする。
①重要な箇所に線を引く。②全体の骨格をとらえ、さらに削る。③残した部分をもとに、要約文をつくる。
④要約部分に当たる内容を説明させる。

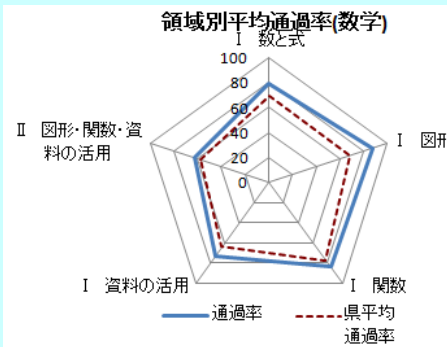
【課題2】

- ◇ 内容を理解した上で、新たな課題を見つける力、学校図書館等の施設の利用とそれらを活用する力をつけるためには課題設定をさせ、それに応じた情報の収集方法を考えさせる授業展開を仕組んでいく。単元を貫く言語活動を充実させることはもちろん、自ら設定した課題を解決するために、学校図書館を活用して、必要な本をどのように探すかを考えさせる。国語以外の教科にも図書館の利用を促す。司書や委員会活動を通じて、図書館利用の機会を増やしていく。

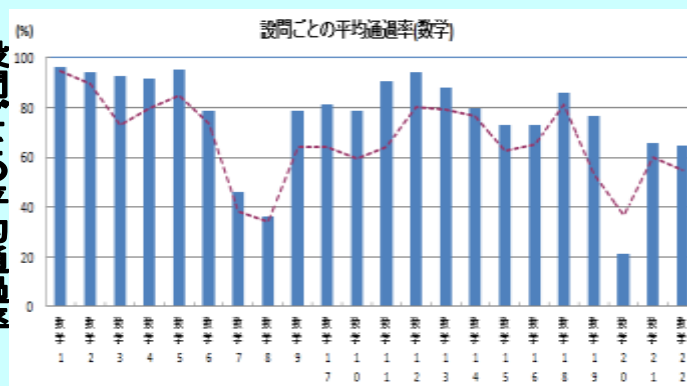
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		第2学年 中間試験	第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第1・2学年 学年末試験
目標値		65.0%	70.0%			70.0%	70.0%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						第2学年 H28「全国学力」	第1・2学年 学年末試験
目標値						60.0%	70.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.5%, 県 66.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- タイプⅠ全体の通過率は80.6%で、通過率50%を下回っている設問は3問、通過率80%を上回っている設問は10問である。(17問中) タイプⅡ全体の通過率は62.8%で、通過率50%を下回っている設問は1問、通過率80%を上回っている設問は1問である。(5問中) このことから、基礎的・基本的な内容の定着が図られていると言えるが、数学的用語を用いて理由をあげて説明するような問題に課題があることが分かる。
- 昨年の課題で、資料を読み取り、資料の代表値を問う設問については、昨年度の通過率31.3%から、今年度は72.9%まで上がった。これは、体力テストや実力テストなど生徒自身に関わるデータを扱う機会を活用し、代表値を使う場面を増やすことで定着したと考えられる。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

- ◎ 比例、反比例を表、式、グラフで表し、それらの特徴を理解する力と、事象を式の意味に即して解釈し、その結果について考える力が身に付いていない。
(10) (2) 通過率 21.2%

【課題2】

- ◇ 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する力が身に付いていない。
(B) (6) (2) 通過率 11.6%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ◎ 比例、反比例を表・式・グラフでそれぞれ表し、各々を比べて違いを見つけさせたり、比例と反比例の違いをフラッシュカードを用いて、毎授業で確認する。事象を見て、比例なのか反比例なのかを考えさせ、なぜ、そう考えたのか、根拠を述べさせる。

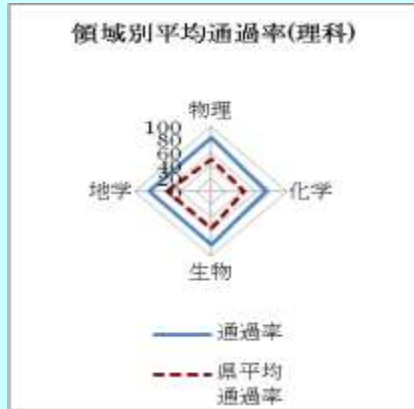
【課題2】

- ◇ 文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定し、グループ活動を取り入れる。

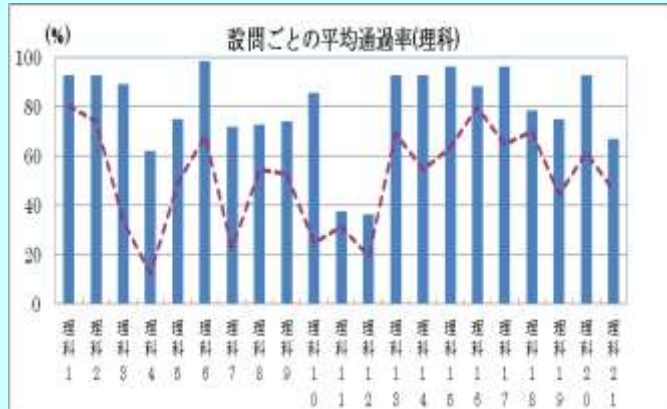
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第2学年 学年末試験
目標値			70.0%			80.0%	80.0%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第3学年 期末試験			第2学年 H28「全国学力」	
目標値			60.0%			70.0%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校79.6%, 県55.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- タイプⅠの平均通過率は物理領域 81.6%、生物領域 94.1%、地学領域 89.4%であり、いずれの領域も 80%を超えていることから、基礎的・基本的な内容についてはかなり定着していると考えられる。また、化学領域は 77.6%であり、60%を超えているので、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着していると考えられる。
- タイプⅡの平均通過率は物理領域が 84.1%と 80%を超えており、教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などは、かなり身に付いていると考えられる。また、化学領域 69.4%、生物領域 62.4%、地学領域 71.2%であり、いずれの領域も 60%を超えていることから、教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などは、おおむね身に付いていると考えられる。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

- ◎ エタノールは消毒液のにおいがし、火をつけると燃えるという知識、実験結果から既習の知識に照らして分析・解釈する力、液体全体に対するエタノール部分の割合を推測する力が不十分である。
(通過率 37.6% 4(4))

【課題2】

- ◎ 植物の体のつくりの特徴についての知識が十分定着しておらず、植物の観察結果をもとに、植物の特徴に照らし合わせて分類する力に課題がある。
(通過率 36.5% 5(1))

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ◎ 既習事項を確認し、時間や温度など正確(緻密)な実験をさせ、実験結果から丁寧に分析・解釈させ、他者に説明させる。具体的には、判断の基準となるエタノールの性質を理解させ、一定時間ごとに、温度や液体の量及びにおいや燃え方などのデータを取る実験を行わせる。そして、実験結果から丁寧に分析・解釈させ、他の班と交流し、説明させる。

【課題2】

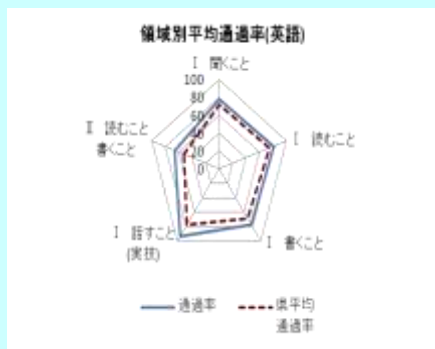
- ◎ 実際の植物を観察させ、植物の体のつくりの特徴について実感を伴って理解させるとともに、観察結果をもとに系統的に植物を分類させる。具体的には、実際の植物を、視点を明確にして観察させ、植物の体のつくりを正確に理解させる。次に、観察結果をもとに、植物を分類する活動をさせる。そして、観察結果を根拠とし、分類した植物について他の班と交流し、説明させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第1・2学年 学年末試験
目標値			70.0%			65.0%	80.0%
実施後数値							

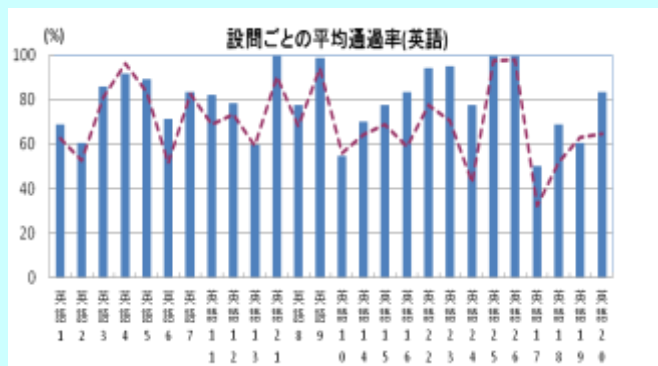
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第1・2学年 学年末試験
目標値			70.0%			65.0%	80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 79.3%, 県 69.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
タイプⅠは81.8%, タイプⅡは65.8%の通過率となっている。このことから基礎的・基本的は内容については定着が図られていると考える。しかし、「基本的な文のきまりを理解した作文」の通過率が低く、課題が見られた。タイプⅡはタイプⅠと比較して通過率が低く、書くこと、読むことの言語領域で、「適切な質問を考えて英文を書く」ことに特に課題が見られた。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は英文を読んで理解し、英文を書くことに課題がみられた。(通過率 75.9%)。そこで、読み取った情報をもとに表を完成させたり、長文の要旨を捉えさせて英語でタイトルをつけさせたりするなどの指導をおこなった。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- 【課題1】 (通過率 54.8% 6(2)②)
◎ 疑問詞 (What sport~) の用法について知識があり、疑問詞を用いて簡単な文を書くことができる。
・What do you like sport (語順間違い) 「何のスポーツ」に当たる意味のまとまりが理解できていない。
・Do you like what sport (語順間違い) まず会話の流れが掴めておらず、「I like soccer」が答えとなる質問を導き出せていない。
- 【課題2】 (通過率 50.0% 11(1))
◎ 情報を基に、それに関する質問を考え、英文を書くことができる。
・内容を理解をする上で支障のない誤りが2カ所以上ある。単語の綴りや大文字、小文字などの文を書くルールが定着していない。
・他の疑問詞から始まる英文を書いている。対話文の流れを正しく捉えておらず、問うべき内容を問う英文を組み立てられていない。既習の疑問詞が整理できていない。

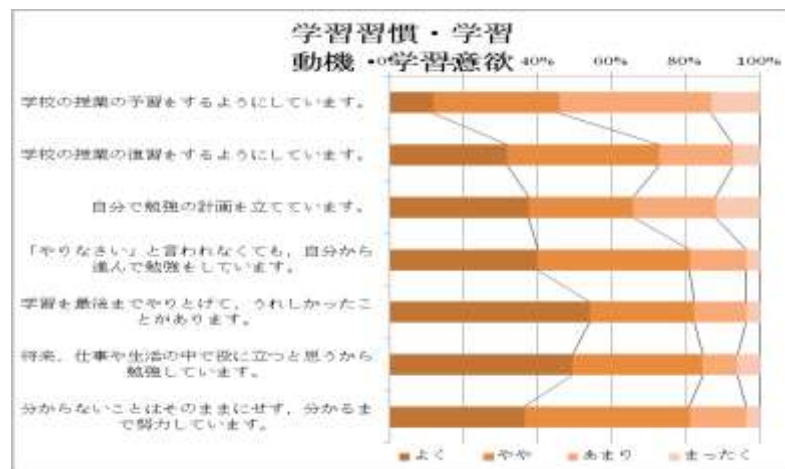
重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】◎
◎ ペアワークでQandAを取り入れる。
授業の帯学習の時間でペアワーク (話すこと) の繰り返し学習をおこなう。好きなスポーツ (What sport), 好きな動物 (What animal), 好きな色 (What color) などパターン化した文型を使用し、相手に尋ねたい内容をたずねさせる。
- 【課題2】
◎ ・会話文など、内容に流れのある英文を多く読ませる。
・会話文の中の登場人物の心情や状況を捉えさせる発問の工夫をおこなう。
・疑問文を用いて正確に英文を組み立てられるよう指導し、特に通過率30%未満の生徒には毎日ノートに意味のまとまりに気をつけて英文を書いて練習するように指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第2学年 学年末試験
目標値			70.0%			70.0%	70.0%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第2学年 期末試験			第1学年 H28「基礎・基本」	第2学年 学年末試験
目標値			65.0%			70.0%	65.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

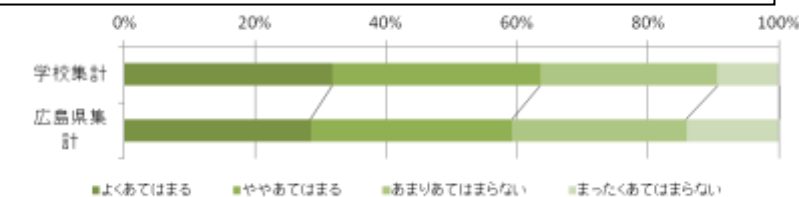
(1) 生活・学習



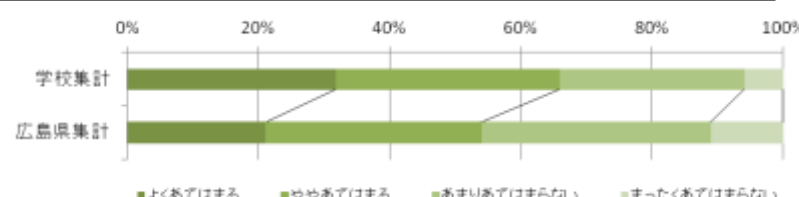
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
◎ 学校の授業の予習をするようにしていると答えた生徒が5割に達していない。(45.9%)	「KUMAトレプラン (学習計画と生活の記録)」を徹底して書かせ、生徒に意識して取り組ませる。各教科で、予習の内容ややり方を指導する。	全	70.0% 80.0% 75.0%	生徒アンケート調査	1月		

(2) 教科

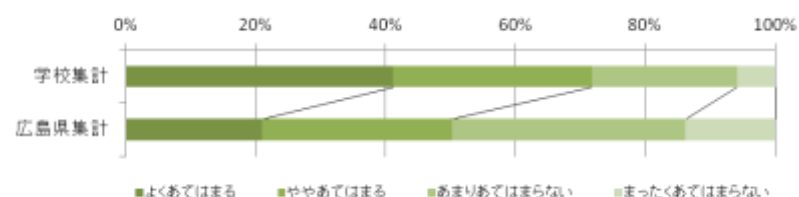
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



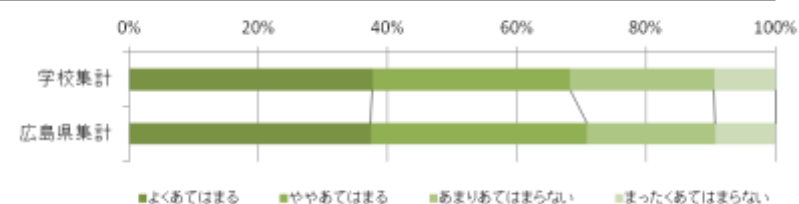
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業はよく分かります。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	◎国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べている生徒が約6割である。(63.5%)	新しい教材に入るときには、その都度、新出漢字や難読語の確認を、辞書を活用して取り組む。	2	80.0%	生徒アンケート調査	1月		
数学	◎数学では、解き方や考え方を話し合う機会はあるが、理由をきちんとあげることが苦手な生徒が多い。(65.9%)	解き方や考え方を話し合う機会を多く設け、まずは自分の考え・その理由を書かせて話し合わせるようにする。	2	80.0%	生徒アンケート調査	1月		
理科	◎自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている生徒が8割に達していない。よくあてはまると答えた生徒は41.2%である。(71.8%)	個人で考えたことを少人数グループで話し合わせたり、派遣員方式で説明させたりするなど、他者に説明する場面を多く設定する。	2	85.0%	生徒アンケート調査	1月		
英語	◎英語の授業がよく分かりますと答えた生徒が7割に達していない。(68.2%)	授業で生徒が楽しく理解し、達成感を得られるような活動を増やす。多様な活動を取り入れ、スローラーナーの生徒達を授業参加させ、ゲームやジェスチャーを通して「分かった感」をもたせる取組を行う。	2	75.0%	熊野町調査アンケート (熊野町英語大好きっ子プログラム)	10月		